－ 日本赤十字看護大学 －

医療と文化

2014/1/15

井 上 陽 介

授業のアウトライン

Module 1

健康・病気の捉え方（第2回–5回）

栄養失調・肥満／痛み／
精神疾患・ストレス／出産・授乳

Module 2

治療・健康追求行動のあり方（第6–9回）

経口補液療法／予防接種／外科手術・臓器移植／
呪術・伝統医療／ネット上の医療情報／プラセボ効果

Module 3

健康決定要因としての文化（第10–13回）

感染症（HIV/AIDS、マラリアなど）／心血管疾患・糖尿病
／移民と健康／経済発展と健康

ケース　日本　精神障害

大阪市平野区で昨年7月、姉（当時46）を自宅で刺殺したとして、殺人罪に問われた無職、大東一広被告（42）の裁判員裁判の判決で、大阪地裁は30日、求刑の懲役16年を上回る懲役20年を言い渡した。発達障害の一種、アスペルガー症候群が動機の形成に影響したと認定した。

刑事裁判では精神障害などを理由に刑を軽くする例が多く、重くする判決は異例。判決について、発達障害者らの弁護に取り組む辻川圭乃弁護士（大阪弁護士会）は「障害を理由に刑を重くしている。障害に対する無理解、偏見に基づく判決だ」と批判している。

河原俊也裁判長は、約30年間引きこもり状態だった被告が、被告を自立させようとした姉を逆恨みした動機の形成には、被告の症状が影響したと認定。「社会内で被告の受け皿が何ら用意されていない。許される限り長期間刑務所に収容することが、社会秩序の維持にも資する」として有期懲役刑の上限を選択した。

ケース　日本　精神障害

#nisseki13

この判決を聞いて、なにを思うか？

・医療従事者として
・住民として

日本の精神科医療の特徴（１）

- 精神病床数が諸外国に比べて多い。
  - 350,000床以上の病床数。全病院病床数の約二割。
- 在院期間が長い。
  - 平均在院日数は331.7日（平成17年5月、全病床では37.5日）、10年以上入院している長期入院患者が全体の3割近くを占める（28.6%）。１年以上の人は70%近く。
- 長期入院患者の中には高齢者が多数。
  - 40%が65歳以上である。さらに、退院後の生活が不透明であるという理由から、社会的入院と呼ばれる状態になっている場合が多い。

日本の精神科医療の特徴（２）

- 脱施設化
  - 病院から地域へ、
  - 入院医療中心から地域生活中心へ

- 長いこと精神保健医療が閉鎖された空間で行なわれ、時に患者の人権が保障されないような状況があったという反省から来る。
- 医療費削減という観点からも、精神障害を抱えるひとを、地域で支えていこうとする機運が高まっている。

精神保健の黎明期

- 医療法（昭和23年）
  - 医療の質を保証する法律として、以下に関する基準を設けている。
    - 病床数　対　医師、看護師数
    - 病院の建物の基準
    - 病室の広さ

- 医療法特例（昭和33年）
  - 精神病院、ハンセン病、結核病棟などで、上記の基準を充たさなくてもよいことにした。
    ⇒精神病院は作りやすい状況に！

昭和３９年：ライシャワー事件

- アメリカ大使館門前でライシャワー駐日大使が統合失調症患者にナイフで大腿を刺され重傷。
  - 輸血をうけ、「これで私の体の中に日本人の血が流れることになりました」
  - しかし、この輸血が元で肝炎に罹患。
    - 売血、血液銀行／輸血の安全性

- 治安悪化への不安や保健医療への批判が活発になり、マスコミを中心として社会防衛的潮流が高まった。
  - 治安モデル

昭和４５年：ルポ精神病棟

- アルコール依存症を装い精神科病院に潜入。

精神医療の世界には「くすり漬け」という恐ろしい言葉がある。医学の美名にかくれて、患者に向精神薬（主として興奮を鎮めるくすり）を必要以上にじゃんじゃん飲ませることである。

患者はボケて、動作も鈍る。だから病院は管理に手がかからない。人件費も浮く。投薬量がふえるほどに儲けも伸びる。しかも密室の中で行われるから、外部から疑問をさしはさまれる心配も少ない。

精神障害者への数々の虐待の中でも、最も陰湿なのが、この「くすり漬け」だと私は思う。そして、この「くすり漬け」の背景をさぐってみると、われわれを取りまく医療環境は、もう、救いがたいほど堕落しているのがわかる。

昭和５９年：宇都宮病院事件

- 1983年4月、入院患者が看護職員に金属パイプで約20分にわたって乱打され死亡。同年12月にも見舞いに来た知人に病院の現状を訴えた患者が職員らに殴られ、翌日に急死した。
- 事件以前から様々な違法行為。
  - 「看護師に診療を行わせる」「患者の虐待」「ベッド数を上回る患者を入院させる」「死亡した患者を違法に解剖」

- 翌年3月に報道され、1987年には精神衛生法の改正法である「精神保健法（現 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律）」が成立。

永山則夫連続射殺事件

- 1968（昭和43）年10月から11月にかけて東京都、京都市、函館市、名古屋市において発生した拳銃による連続殺人事件。
- 犯行当時19歳の少年。一審　死刑判決（1979年）、二審　無期懲役（1981年）、最高裁　死刑判決（1990年）。1997年刑死

- 永山則夫：
  - 1949年、北海道生まれ。父親はギャンブルに明け暮れ、家庭は崩壊状態。5歳のころ、則夫を残して母は青森の実家に帰ってしまう。1965年、東京に集団就職する。その後職や住所を転々とするものの、どこも長続きしなかった。米軍基地内で盗んだ拳銃を使って連続殺人。

ビデオ

- ETV特集：

永山則夫　100時間の告白
～封印された精神鑑定の真実～

http://goo.gl/RR964d　／　http://goo.gl/wQs2qR

ビデオ視聴のポイント

- 永山がPTSDであったとする精神鑑定書への「信頼」について
  - 刑法第39条
    1. 心神喪失者の行為は、罰しない。
    2. 心身耗弱者の行為は、その刑を減軽する。

- 永山の生育環境ー「貧困の文化」について